

Ⅱ 03 社会

問題構成

本校の社会の入試問題は、基本的知識の確認だけでなく、社会的事象に対する関心の有無、それぞれの事象の相互関連性やその背景について理解する力、基本的知識を使って資料を読み解く力を問うことに重点を置いて出題しています。

各回とも、歴史分野、地理分野、公民分野からそれぞれ1題ずつ、計3題の大問で構成されています。なお、歴史分野・地理分野の大問に比べ、公民分野の大問の配点を少なめに設定しています。以下は、2024年度入試の各回の出題テーマです。

第1回

- ① 漁業をテーマにした歴史分野の問題
- ② 紙幣のデザインをテーマにした地理分野の問題
- ③ ポジティブ・アクションをテーマにした公民分野の問題

第2回

- ① 本をテーマにした歴史分野の問題
- ② 日本遺産をテーマにした地理分野の問題
- ③ 民主主義をテーマにした公民分野の問題

以上のように、各大問はあるテーマに沿って作られています。しかし実際の各設問はそのテーマに限定せず、幅広い分野から出題しています。従って、どこかの分野や範囲に集中的に力を入れて学習するのではなく、まずは基本的知識をしっかりと確認し、全体をまんべんなく学ぶ堅実な勉強を心がけてほしいと思います。設問の数は、例年、各回でそれぞれ38問～40問程度です。問題数が多いので時間配分にも注意して解答することも求められます。

設問の形式は、基本的な用語の知識を確認する記述式問題、あるできごとについての正確な理解や詳細な知識を問う正誤判定問題、社会的用語をはじめ地図やグラフの読み取りに関する問題、歴史的なできごとを起こった順番に並べかえる問題など、多様です。中には問題文中の空欄の穴埋め問題や、下線部に関する設問以外の問いを出す場合もあります。設問の中心は基本的な知識を問うものや、その知識を前提に考えれば解ける問題です。社会科の学習は、用語を覚えればよいというものではありません。しかし、思考する前提として正確な知識は不可欠です。

また、本校では図表の読み取りや歴史上の事象・現代社会の問題の背景にある因果関係などについて、1～2行程度（字数指定の場合もあります）の記述問題を出題しています。こうした問題を出題するのは、普段からその用語の意味や、あるできごとが起きた背景・理由を考えながら学ぶ姿勢を持ってほしいからです。社会の入試問題では、用語を答える単純な記述式問題において、原則として漢字指定や文字数指定、場合によってカタカナ指定などによる解答を求めています。そのため、参考書や教科書に漢字で書かれている用語については、正確な漢字で書けるようにしておく必要があります。解答にあたっては、設問ごとに「何を問われているのか」を正確に把握し、その設問の指示に従って解答するように心がけてください。なお、リード文もよく読み、解答の参考にしてほしいと思っています。**2024年度入試第1回の③問10**では、リード文の読解力を問う問題を出題しています。

歴史分野の出題の意図

本校では、中1と中3の2年間で、日本を中心とする歴史を学びます。その前提として、日本の歴史についての基本的かつ正確な理解を求めています。

例えば、**2024年度入試第1回**の①問6は、室町時代の社会や文化の特徴を、また**第2回**の①問5はグラフの読み取りを行った上で、武士が活躍した時代のできごとを問うものでした。特定の用語の内容や時期などを正確に理解することはもちろん、その背景や影響なども丁寧に把握しておくことが大切です。また**第1回**の①問5は、駿河国や相模国など旧国名に関連する問題で、人物の功績や関連するできごとだけでなく、その場所についても合わせて問うものでした。地名が出てきたら、その場所を地図帳で確認しながら学習をすすめることも、知識を深めるには有効な学習法です。

また、歴史の正確な知識を身につけようとする、その時代に関する知識ばかりに集中してしまいがちです。しかし、歴史の学習に必要なことは、各時代の個々のできごとを歴史の中にきちんと位置づけて理解することです。このような学習が日常からできているかを試すために、各回ともおおまかな歴史の流れを問う並べかえ形式の問題を必ず出題するようにしています。並べかえというと、「そのできごとの起こった年を丸暗記して順番にする」ととらえられがちですが、歴史上の人物やできごとを、その時期の時代背景の中で大きくとらえて位置づけることが大切です。**第1回**の①問12は、満州事変から日中戦争のころまでのできごとを並べかえる問題です。これらのできごとは年号を覚えていなくても、「C柳条湖事件」から始まる満州事変（満州国建国）→満州国建国を認められなかったために日本が「A国際連盟から脱退」→盧溝橋事件で開始された日中戦争が長期化する中で「B国家総動員法の制定」というように、前後の流れから順番を判断することができます。また、**第2回**の①問4はA～Cが何時代のことか判断できれば並べかえが可能です。こういった形式の問題に対応するためには、あるできごとが前後の歴史の流れとどのような関連があるのか、どの時代の特徴を表しているのか、という点を意識して学習することが重要です。

地理分野の出題意図

地理は、今私たちが生きている世界や日本のあり方を、地図や統計、写真といった資料を駆使して理解し、視野を広げていく科目です。「地理」＝「暗記科目」というイメージが強いかもしれませんが、確かに、地名など覚えなければならないことも多くあります。しかし、それは地理学習のゴールではなく、あくまでスタートであることを忘れてはなりません。「地理」とは、読んで字のごとく「大地の理（筋道や理由）」を学ぶ科目です。地理学習の楽しさは、自然（地形や気候など）と人間活動（農業や工業など）の関係や、地域の共通点や相違点を理解することにあります。本校での地理学習においても、このようなつながりを意識して学ぶことを大切にしています。

地理分野の出題においては、日本各地の自然や産業を中心に、グラフや統計の読み取り問題を出題しています。例えば、**2024年度入試第1回**の②問9は、日本の面積と人口の上位10位までの都道府県の数、8つの地方ごとにまとめた資料から判別する問題です。また、**第2回**の②問5は、東京都の3つの市区について、人口・面積・産業の特徴を理解しているかを問う問題です。まずは各地域の基礎的な特徴を学習し、その共通点や相違点を意識することが大切です。**2024年度入試第1回**の②問5や問8のように、統計地図を使った出題もしていますので、地理を学習するときには、地図帳を手元において、場所を確認しながら取り組むようにしましょう。**2024年度入試第2回**の②問3のように、地形図から読み取れる情報を元に地域の様子を問う問題も出題されます。そ

して、**2024年度入試第1回**の**2問10**（日本とアメリカ・中国との貿易額の推移）のようなデータを読み取る問題では、グラフや表が表していることの意味を理解し、知識と結び付けることが大切です。このようなデータは、私たちの社会の一側面を表現したものです。日常生活の中で自分が体験したり、ニュースで聞いたりしたことを思い浮かべることで正解にたどり着くことができるでしょう。グラフや統計の読み取りでは、その資料がどのような社会の側面を表しているのか、という点を意識して学習することが重要です。

公民分野の出題意図

本校の公民の学習において目指していることは、「自らが社会を作る主体であるという自覚を持つこと」です。本校では、社会の中で日々生活する中で、社会に存在している価値観や規範に無批判に従うような存在としてではなく、今ある価値観や規範の意義を批判的に考察し、よりよい社会の実現のために自らの学びを活かすことのできる存在になって欲しいと考えています。そのため受験生には、まず現代社会のあり方について基本的なことから理解することを求めています。出題する多くの問題は、日本国憲法や基本的人権の内容、国政や地方自治の仕組み、財政や経済の仕組み、国際社会の理解など、さまざまな分野における基本的なことから問うものになっています。そして基本的な知識の習得はもちろんですが、単なる暗記ではなく、さまざまな課題に対して自分の持っている知識を活用することが求められています。そのためには、問われているものが何であるのかをしっかりと理解し、それに対する適切な答えを導き出していく力が必要です。

また、現代社会で起こる変化についても目を向ける習慣をつけてほしいと思います。これは社会の制度やその背後にある価値観の変化についての理解を深めることで、社会について主体的に考える力を養うことができるからです。公民分野では時事的な知識を問う問題を必ず出題しています。新聞やテレビなどを通してニュースに触れ、社会に対して関心や問題意識を持ってほしいからです。例えば**2024年度入試第1回**の**3問2**は近年の日本の経済状況、**第2回**の**3問4**はマイナンバーカードと健康保険証の一体化といった、ニュースで話題となったことを意識した出題です。ニュースの内容と普段学習していることから結びつけると、より理解が深まります。